

# 競技注意事項

## 1. 競技規則について

本大会は、2016年度日本陸上競技連盟規則並びに本大会の申し合わせ事項により実施する。

## 2. 練習について

(1)練習は補助競技場及び雨天練習場(使用方法については下記参照)の使用を原則とする。ただし、投てき種目の円盤投・やり投の練習は多目的広場を使用する。砲丸投の練習は、補助競技場内トラック外側の砲丸投ピットのみを使用する。ハンマー投の練習は、東駐車場横の自由広場を使用する。使用の際は、競技役員の手指示に従って行う。

補助競技場のレーン使用について

- ・1～2レーンは周回練習のみ使用可とする。ただし、1レーンはトライアル、2レーンはジョグ練習とする。(集団ジョグは不可)
- ・3～4レーンは短距離、リレー練習を優先する。
- ・5～6レーンは400mHを優先する。(ただし、5台目まで)
- ・ブロックを使用してのスタート練習は、多目的広場側直走路5～10レーンとする。
- ・多目的広場側直走路5・6レーンは短距離走、7・8レーンは女子100mH、9・10レーンは男子110mHとする。
- ・テント等を設営しての独占的な使用をしない。

雨天練習場の使用について

- ・ピストルの使用は禁止する。
- ・入場は、第2ゲート側の入り口より入場することができる。第3ゲートからの出入りは禁止する。
- ・シート等を敷いて独占的な使用をすることを絶対にしない。
- ・ウォーキング・ジョギングなどペースが著しく遅いウォーミングアップまたは、動きづくり程度の練習は行ってもよい。それ以外は、補助競技場で行うこと。
- ・ウォーキング・ジョギング等は、左回りとし、逆走はしない。
- ・ハードル、スターティングブロックは使用できない。
- ・雨天時については別途指示する。

## (2)練習場使用日程

	5月27日(金)	5月28日(土)	5月29日(日)
主競技場	9:00～10:40 ・トラック	7:30～9:10 ・トラック	7:30～9:10 ・トラック
補助競技場	9:00～19:00 ・トラック ・跳躍 ・投てき(砲丸投)	7:30～17:00 ・トラック ・跳躍 ・投てき(砲丸投)	7:30～17:00 ・トラック ・跳躍 ・投てき(砲丸投)
多目的広場	9:00～17:00 ・投てき(円盤投,やり投)	7:30～17:00 ・投てき(円盤投,やり投)	7:30～13:00 ・投てき(円盤投,やり投)
自由広場	9:00～14:00 ・投てき(ハンマー投)		

### 3. 招集について

- (1) 招集所は、第2ゲート付近に設ける。
- (2) 招集開始の時刻及び招集完了の時刻は次の通りとする。

招集時刻	予選		準決勝		決勝	
	開始	完了	開始	完了	開始	完了
トラックの部	30 分前	20 分前	25 分前	15 分前	25 分前	15 分前
フィールドの部	—	—	—	—	60 分前	50 分前
棒高跳	—	—	—	—	70 分前	60 分前
混成競技	—	—	—	—	30 分前	20 分前

(注) 混成競技については、第1日及び第2日の最初の競技種目について上記時刻で招集を行う。  
以降は混成競技者控室で競技役員の指示に従う。

- (3) 招集完了時刻の5分前に招集所で待機し、最終チェックを受ける(代理人は不可)。その際、競技者係にナンバーカード、スパイク、衣類、持ち物等の確認を受け、その後競技者係の誘導に従う。
- (4) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとみなす。
- (5) 2種目以上を同時刻に兼ねて出場する競技者は、競技開始前に2種目同時出場届を提出する。
- (6) リレー競技に出場するチームは、各ラウンド(予選・決勝)の第1組の招集完了時刻の1時間前までに競技者招集所に用意しているオーダー用紙にメンバーを記入し、競技者係に提出する。
- (7) トラック競技のみ腰ナンバー標識を受け取り、競技終了後、フィニッシュ地点で係員に返却する。
- (8) 携帯電話、CD等、競技規則第144条3(b)に関わる機器は、競技場内に持ち込めない。
- (9) 競技者の入退場は係員の指示に従う。
- (10) 学連登録時の氏名と番号がプログラム上のそれと異なり、主催者側に過失が認められない場合は、競技に出場できないことがある。

### 4. 棄権について

- (1) 棄権については、大会の権威と運営の円滑を期するために極力避ける。大会申込後にやむを得ず棄権をする場合は、「棄権届」(受付及び招集所に用意)2枚に当該校の監督・コーチがサインの上、招集完了時刻までに競技者係へ提出する。
- (2) 無断で棄権した場合、その競技者は以降の出場を認めない。

### 5. 走路順・競技順について

- (1) トラック種目の予選レーン及びフィールド種目の試技順はプログラム記載の順とする。
- (2) トラック種目の準決勝以後の組み合わせ、レーン順については主催者が公平に抽選し、決定する。  
トラック種目のプラス出場者において同タイムが出た場合は、以下の方法で選出する。
  - ① 800m 以下およびリレー種目での次ラウンド進出のための最後の1枠を決めるにあたり異なる組みで同成績がいる場合、写真判定員主任は 0.001 秒の実時間を考慮して決定しなくてはならない。この結果ランキングの順位を決定するにあたり、まだ同成績がいる場合はには、該当競技者または代理人の抽選によってランキングの順位を決定する。
  - ② 1500m 以上のトラック種目については同タイムの競技者は全て次のラウンドに進出できる。
- (3) 予選で棄権者が多く8名以下になった場合は、予選をとりやめ、決勝の時刻に決勝レースを行う。

### 6. ナンバーカードについて

- (1) ナンバーカードは本年度登録番号のものを使用する。
- (2) ナンバーカードは、その大きさのままユニフォームの胸および背中に確実につける。ただし、跳躍種目に関しては、胸または背のいずれかに1枚つけるだけでもよい。
- (3) トラック種目出場者は腰ナンバーカードを使用する。ナンバーカードは招集の際に受け取る。なお、

5000m, 10000m 及び 10000mW においては、周回の確認のため、トランスポーター付きの腰ナンバー標識を使用する。トランスポーター付きの腰ナンバー標識は左腰につけ、通常の腰ナンバー標識は右腰につける。

## 7. 競技について

- (1) 本競技における不正スタートは、1回で失格とする。
- (2) 男子 5000m, 男子 3000mSC は、タイムレースで行う。
- (3) 競技運営の都合上、男子 10000mW は 60 分、女子 10000mW は 70 分を越えて次の周回に入れない場合がある。
- (4) 男女 5000m, 10000m, 男子 10000mW では、給水所を設ける。
- (5) 競技者が使用するマーカー(4×100mR, 跳躍競技, やり投)は主催者が用意したものをを用い、それ以外のものは使用できない。跳躍競技, やり投は助走路外側にマークを2カ所まで置くことができる。
- (6) 短距離種目のフィニッシュ後は競技者の安全のために自分に割り当てられたレーン(曲走路)を走る。
- (7) リレー種目に出場する場合は、各大学の同一ユニフォームで参加しなければならない。
- (8) リレーチームの編成メンバーは、どのラウンドにおいても本大会に申し込んでいる競技者であれば出場できる。ただし、どのラウンドにおいても、出場するメンバーのうち少なくとも2名はリレーに申し込んだ競技者でなければならない。最初のラウンドに出場したメンバーのうち2名以内に限り、その後のラウンドで他の競技者と交代できる。
- (9) 男子三段跳の踏切板は砂場から12mの位置に設置する。
- (10) 女子三段跳の踏切板は砂場から9mの位置に設置する。
- (11) 男子の円盤投, やり投については競技運営上、計測ラインを設ける。(円盤投 30m, やり投 50m)  
また、男子走幅跳で計測ラインを設けることがある。
- (12) 抗議は規則第146条に基づき、結果の発表後30分以内に、次のラウンドが行われる場合は15分以内に本人または監督から総務員を通じて審判長に対し口頭で申し入れる。
- (13) 競技者に対する助力について、規則第144条で認められない行為があった場合、審判長が警告を行う。さらに助力が繰り返される場合、当該競技者に対し失格を勧告する。

## 8. 走高跳, 棒高跳について

- (1) 走高跳, 棒高跳のバーの上げ方は原則として下記の通りとする。

種目	練習	1	2	3	4	5	以後
男子走高跳	1m70	1m75	1m80	1m85	1m90	1m95	+3cm
女子走高跳	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	+3cm
男子棒高跳	2m80	3m00	3m20	3m40	3m60	3m80	+10cm
女子棒高跳	現地にて決定する						
混成競技	現地にて決定する						

以後の試技については、競技者が最後の1人になり、優勝者が決定するまでは走高跳は3cm, 棒高跳は10cmきざみで上げる。なお、第1位決定の際のバーの上げ下げは、走高跳は2cm, 棒高跳は5cmとする。

- (2) 棒高跳の支柱移動については競技開始前に跳躍場で競技役員に申し出ること。

## 9. 競技用具について

- (1) スパイクピンは平行ピンとし、9mm以下のものを使用すること(走高跳・やり投げは12mm以下)
- (2) 競技に使用する用具は、すべて主催者側が用意したものを使用しなければならない。ただし、棒高跳用ポール・やり投用やりだけに限り審判員の検査を受け、個人使用のものを使用することができる。

(3)練習用として個人の用具を競技場へ持ち込んではいけません。

#### 10. 競技場の入退場について

(1)入場については、全て係員の誘導による。

(2)退場については、審判員の指示に従って退場する。

(3)主競技場アリーナ(トラックと同一面の主競技場内)には、競技に出場する競技者と競技役員・特に許可された者以外は立ち入ることができない。

#### 11. 表彰について

(1)表彰は、各種目第3位までの入賞者に対し、表彰式で賞状とメダルを授与する。競技終了後、直ちに正面玄関ロビーに集合する。受賞者は原則として各校のユニフォーム(上はランニングシャツ)を着用する。また、第8位までの入賞者には賞状を授与する。賞状は正面玄関ロビーの表彰者待機場所付近に用意する。

(2)各種目の得点は1位 8 点, 2 位7点, 以下6点, 5点, 4点, 3点, 2点, 1点とする。同順位が複数(n)生じた場合は順位点の合計をnで除した得点とする。

(3)学校対校得点で男女とも総合1位の学校に優勝杯を、3位までの学校に賞状を授与する。また、トラック、フィールド部門で男女とも得点3位までの学校に賞状を授与する。

(4)男子最優秀選手賞またはリレーチームに菅沼賞を、女子最優秀選手賞またはリレーチームに川村賞を授与する。

#### 12. その他

(1)主催者は競技者の負担・疾病については応急措置以外の責を負わない。それ以上の対応については、各校で行うこと。

(2)更衣室はメインスタンド下の部屋を使用すること。荷物は各自で管理すること。紛失など万一のことがあっても主催者側は責任を持たない。

(3)商標について

競技者が競技場に商品名がついた衣類・バッグ類などを持ち込む場合には、日本陸上競技連盟規則第4条付則1「競技者の着用衣類」の項を参照すること。

(4)競技結果・番組編成については競技場正面玄関付近の記録表示場所に掲示すること。

(5)競技場内でテント、横断幕、部旗、のぼり等を使用する場合は、バックスタンドの中段および上段の手すりのみに掲げることができる。いずれの場合も、個人名を記入した横断幕、部旗、のぼり等を使用してはならない。また、ロープ等を使つての場所取りも禁止とする。メインスタンドおよびスタンド裏においては通行の妨げにならないよう場所取りには配慮する。

(6)記録証明書を希望する競技者は、大会本部付近で記録証発行所を設置するので、「記録証明書交付願」に必要事項を記入し、300円を添えて申し込むこと。

(7)競技場(練習場)で生じた「ごみ」は配布したビニール袋を利用し、各大学責任を持って「可燃ゴミ」「ペットボトル」「ビン・カン」に分別して集め、第1ゲート裏側のゴミ集積場に持っていくこと。

(8)競技場の開門及び閉門時刻は次のようにする。

	陸上競技場	補助競技場	多目的広場	自由広場
第1日 5月27日(金)	9:00~20:00	9:00~19:00	9:00~17:00	9:00~14:00
第2日 5月28日(土)	7:30~20:00	7:30~17:00	7:30~17:00	
第3日 5月29日(日)	7:30~15:00	7:30~17:00	7:30~13:00	